
全テニ害ヲ与エル加害者

うおう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全テニ害ヲ与エル加害者

【Nコード】

N1895Y

【作者名】

うおう

【あらすじ】

普通には縁がなく、特別より遙かに上、異常には当てはまらず、過負荷にしては強すぎ、悪平等には入らない。

「黒神めだか、お前が全ての人間を幸せにするなら、俺は全ての人間に害を与える……」
天害孤独、加害者であり、過乗である天害叢雲の物語である……

害人ノハジマリハジマリ（前書き）

息抜きで書きました。

害人ノハジマリハジマリ

あるところにとても奇妙な少年がいた。

その少年は普通ではなかった。

そして異常でもなかった。

人はそれを過負荷と呼んだ。

その少年が歩くと大地が裂け溶岩が吹き出し、

その少年が泳ぐと地震が起こり津波が起こり、

その少年が飛ぶと台風が起こり暴風雨が吹き荒れ、

その少年が怒ると天が恐れ地が恐れ海が恐れる。

その少年は自然と共にあり、自然に嫌われ虐げられ襲われる。

その少年の名は テンガイ 天害 叢雲

自然に嫌われる少年の物語が始まる・・・

害人ノ生誕

〇〇??年 月 日

その害人は生まれた。

その害人は生まれてすぐ両親を亡くした。

両親は不幸にもその害人が病院を退院する時、大きな地震があり病院は崩れ、

多くの医師と看護師と入院していた病人と共に生き埋めになった。

だが奇跡的にその害人だけは生き残った。

その害人のそこだけが倒壊しなく残り、傷もなく生き残った。

だがその害人以外の病院に居た人たちは全員死んだ。

そしてその害人は静岡県にいる父方の祖父母の家に送られた。

だが祖父母の家に送られて一週間後に富士山が噴火した。

その噴火により祖父母は逃げ遅れ死んだ。

その他にも多くの犠牲者を出した。

しかしその害人はまた生き残った。

その害人は運良く他の親戚の家に行っていたので噴火に巻き込まれずに済んだ。

生まれてから一か月も経っていないのに肉親のほとんどが死んだ。

そしてその親戚の家でも自然災害が起こりその親戚は害人以外死んだ。

かくして、その害人が行った所は全て事故に遭うとレッテルを張られ、

その害人は次第に疎まれる損害になった。

そして一か月間親戚に盥回しにされ、最後には捨てられ生まれて一か月にして孤児になった。

そしてその親族たちはみな不幸な自然災害に遭い、害人を引き取った所は全員死んだ。

そして孤児になった害人はある人物に拾われた。

これが安心院なじみと天害叢雲の出会いだ。

害人ノ生誕（後書き）

いろんな自然災害に遭っても死なないのは、安心院さんだと思いました

最初は拾った後実験台にしようと思ってたんだ。

だけど彼のスキルを見てその考えは一変したよ。

彼はとても素晴らしく最低で最悪で災厄な過負荷マイナスを持っていたんだ。

そして数千年に稀にしか出ない主人公体質なんだ。

だからこの子は僕の手で育てておくことにしようと思ったんだけど・
・

やっぱり放置した方が過負荷マイナスも成長して僕も楽ができると思うんだ。

だから彼は七億人以上いる僕に育てさせ最後には捨ててあとは放置
ということにしたんだ。

彼が成長したとき会うのが楽しみだよ。

ついでにスキルを何個か上げてもいいかな？

- - - - -

[illegible]

安心院なじみは害人にあらゆる実験をした。

奇妙な薬品を掛けられたり飲まされたり、

重力が何倍もの所で実験をしたり、

ありとあらゆる環境でのテストをされたり、

そして約一年後には、赤ん坊とは思えない体を害人は手に入れた。

そして安心院なじみが拾って二年後、害人はある夫婦に預けられた。

預けられるとき安心院なじみは、害人にある封印をした。

それは一定のところで過負荷が成長しなければスキルが使えないというものだ。

その夫婦は害人にあらゆる虐待をした。

殴り蹴りは当たり前、たばこを顔に押し付けたり首を絞めたり、

何日も食べ物や飲み物を与えなかったり、

真夏に熱した鉄パイプで殴られたり、真冬に氷が入ったプールに入られたり、

様々な虐待が害人を襲った。

虐待の毎日で害人の心には着々と闇が積もりつつあった。

そしてある日、その闇が爆発した。

成長に成長を重ねた害人の過負荷は二年前より遥かに最悪最低災厄になっていた。

彼が腕を上げれば雷鳴が轟き雷が落ち、

彼が手を払えば暴風が吹き荒れ、

脚を強く踏み込めば地震が起きる。

彼はその過^ち負荷を存分に使い、天変地異を起こした。

そのことは後々語られていくだろう。

天害 叢雲 二歳

害人ノ旅

害人は天変地異を起こし、二年間住んでいた町を壊した。

竜巻と吹雪と台風を一変に起こし、町を壊し尽くした。

町を壊し尽くした後、害人は旅に出た。

害人は行く先々の町を壊しまくった。

ある時は、津波を起こし町を流し、

またある時は、大雨を降らし大規模な土砂崩れ起こし町を埋め、

ある町は病気を蔓延させ、バイオハザードを起こした。

そして二年間の旅の末、害人の過負荷は飛躍的にマイナス成長した。

箱庭学園に辿り着いた害人は腕試しで箱庭学園をぶち壊そうとした。

が当時の生徒会役員と十三組の生徒とフラスコ計画の研究者達に邪魔をされ、壊す事は出来なかった。

だが邪魔をした奴らは、全員害人の過負荷^{マイナス}で死んだ。

そして害人は生徒会役員達との戦いで過負荷^{マイナス}がさらに成長し戦いに勝利した。

害人は戦いには勝ったが少なからず傷を負ったので、箱庭学園から出ていかざるを得なかった。

箱庭学園から出て行った害人はまた壊す旅に出た。

日本は粗方回り尽くしたので今度は外国に行った。

そして今度は町ではなく、都市や国などを壊して回った。

オセアニアのある国では大津波を起こし国を海の底に沈ませ、

アジアのとある国では超大型台風を幾つも起こし主要都市などを荒

らしまわった。

ヨーロッパの歴史ある都市では巨大地震を起こし崩壊させ、

アフリカでは少ない雨をさらに少なくし、ついでに塩害を起こし幾つもの国を干からびさせ、

世界最大の国には隕石を大量に落としまくった。

そしてまた二年間の旅を終え、害人は日本に帰ってきた。

そして害人はとある孤児院に潜り込んだ。

その孤児院で害人は異常性を披露し、皆から疎まれ院長に箱庭総合病院に送り付けられた。

送り付けられた後、その孤児院は自然発火による火事で委員長含め全員が焼け死んだ。

そして害人は箱庭総合病院で過負荷^{マイナス}二人と出会った。

この出会いを切っ掛けに後に害人と恐れられた、天害 叢雲、の物語が始まる。

害人ト二人ノ過負荷（前書き）

害人のスキルは元々は過負荷なのですが
安心院さんによる改造手術と実験と虐待などの出来事が起こり
過負荷を遥かに超えた存在に成りました。

あと小説名変えました。

院長には化けもの扱いされるし、ほかの子達は僕のこと見ると石投げてくるし、

まあどうでもいいけどね。

どうせ皆死んじゃうんだからね。

この待合室には僕以外に二人いたんだ。

せつかくだから挨拶でもしておこうかな？

害「やあ御機嫌よう、見知らぬ少女に少男。僕の名は天害 叢雲、以後お見知りおきを。」

少女「……………お前ゲームの音うるさいんだよ。」

少年「これはご丁寧に私は蝶ヶ崎 蛾ヶ丸と申します。

ゲームの音に関してはごめんなさい、以後気を付けます。」

少女の方は失敗したけど蛾ヶ丸君は成功したみたい。

あれさっきの少女が何故か釘バットを持って蛾ヶ丸君に向かって振りかぶって……

ガキイイ>NNNN!!!!!!

あれ頭がイタ・
・
・
・
・
・

そして僕の方に振りかぶって……

ガキキイイインンンンン！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

明らかに僕の方が大きすぎるだろ!!!

少女「ごめんなさいすみません二度としませんから許してください。」

L

蛾ケ「ええ、こんなことは不慮の事故ですので……」

あれ何で蛾ケ丸君は釘バツの一撃が頭に直撃したのに平気なんだろう???

そしてなんで僕は頭をけがしてるんだろぅ????

害「ちよつといいかな、蛾ヶ丸君……なんで君はそんなに平気なんだい??？」

蛾ケ「叢雲君、これは私のスキルで私の受けた痛みとけがをあなたに押し付けているからです。」

害「へーそうなん。」

蛾ケ「それにしても貴方は大丈夫ですか??」

害「大丈夫だよ、たかが女の子の一撃どうって事ないよ。」

少女「なんだとゴラァ!!さっきから聞いてりゃ好き勝手言いやがって……」

害「うるさい。」凸風「」

ドゴォォン!!!

少女「ヒイツ!!!」

害「ああごめんごめん、悪かったね。でも君も悪いんだよ。」

少女「ああ・・・悪かったよ・・・(なんだ今の!!!病院の壁にヒビが入ったぞ!!!)」

蛾ケ「……………(見たこともないスキルですね。彼はいったい何者なんでしょうか?)」

「ピンポンパンポン!叢雲君!!!診察の時間ですよ!!!」

害「ああもう診察の時間だ。それじゃあね。」

少女「待てよ。」

害「なにに??？」

少女「俺の名前は志布志飛沫だ。覚えておけ。」

害「分かったよ飛沫ちゃん。僕の名前は天害 叢雲。以後お見知りおきを。」

1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10
11	11	11	11
12	12	12	12
13	13	13	13
14	14	14	14
15	15	15	15
16	16	16	16
17	17	17	17
18	18	18	18
19	19	19	19
20	20	20	20
21	21	21	21
22	22	22	22
23	23	23	23
24	24	24	24
25	25	25	25
26	26	26	26
27	27	27	27
28	28	28	28
29	29	29	29
30	30	30	30
31	31	31	31
32	32	32	32
33	33	33	33
34	34	34	34
35	35	35	35
36	36	36	36
37	37	37	37
38	38	38	38
39	39	39	39
40	40	40	40
41	41	41	41
42	42	42	42
43	43	43	43
44	44	44	44
45	45	45	45
46	46	46	46
47	47	47	47
48	48	48	48
49	49	49	49
50	50	50	50
51	51	51	51
52	52	52	52
53	53	53	53
54	54	54	54
55	55	55	55
56	56	56	56
57	57	57	57
58	58	58	58
59	59	59	59
60	60	60	60
61	61	61	61
62	62	62	62
63	63	63	63
64	64	64	64
65	65	65	65
66	66	66	66
67	67	67	67
68	68	68	68
69	69	69	69
70	70	70	70
71	71	71	71
72	72	72	72
73	73	73	73
74	74	74	74
75	75	75	75
76	76	76	76
77	77	77	77
78	78	78	78
79	79	79	79
80	80	80	80
81	81	81	81
82	82	82	82
83	83	83	83
84	84	84	84
85	85	85	85
86	86	86	86
87	87	87	87
88	88	88	88
89	89	89	89
90	90	90	90
91	91	91	91
92	92	92	92
93	93	93	93
94	94	94	94
95	95	95	95
96	96	96	96
97	97	97	97
98	98	98	98
99	99	99	99
100	100	100	100

飛沫「行つたか？」

蛾ケ「ええ行きましたねえ。」

飛沫「いったい彼奴は何者なんだろうなあ。」

蛾ヶ「さあでも彼を見て、生まれて初めてですよこんな感情は。」

飛沫「お前もか？俺も本能レベルで思ったぜ。」

「彼は絶対に敵に回してはいけない存在」
あいつ だってな

1	1	1	1
2	2	2	2
3	3	3	3
4	4	4	4
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9
10	10	10	10
11	11	11	11
12	12	12	12
13	13	13	13
14	14	14	14
15	15	15	15
16	16	16	16
17	17	17	17
18	18	18	18
19	19	19	19
20	20	20	20
21	21	21	21
22	22	22	22
23	23	23	23
24	24	24	24
25	25	25	25
26	26	26	26
27	27	27	27
28	28	28	28
29	29	29	29
30	30	30	30
31	31	31	31
32	32	32	32
33	33	33	33
34	34	34	34
35	35	35	35
36	36	36	36
37	37	37	37
38	38	38	38
39	39	39	39
40	40	40	40
41	41	41	41
42	42	42	42
43	43	43	43
44	44	44	44
45	45	45	45
46	46	46	46
47	47	47	47
48	48	48	48
49	49	49	49
50	50	50	50
51	51	51	51
52	52	52	52
53	53	53	53
54	54	54	54
55	55	55	55
56	56	56	56
57	57	57	57
58	58	58	58
59	59	59	59
60	60	60	60
61	61	61	61
62	62	62	62
63	63	63	63
64	64	64	64
65	65	65	65
66	66	66	66
67	67	67	67
68	68	68	68
69	69	69	69
70	70	70	70
71	71	71	71
72	72	72	72
73	73	73	73
74	74	74	74
75	75	75	75
76	76	76	76
77	77	77	77
78	78	78	78
79	79	79	79
80	80	80	80
81	81	81	81
82	82	82	82
83	83	83	83
84	84	84	84
85	85	85	85
86	86	86	86
87	87	87	87
88	88	88	88
89	89	89	89
90	90	90	90
91	91	91	91
92	92	92	92
93	93	93	93
94	94	94	94
95	95	95	95
96	96	96	96
97	97	97	97
98	98	98	98
99	99	99	99
100	100	100	100

害人 天害 叢雲 六歲

害人ノレポート（暇があったら書き足す）

名前 テンガイムラクモ
天害叢雲

口癖 以後お見知りおきを。

身長 182？

体重 59？

外見 白髪に黒が混じった髪に黒目の日本人。顔は上の下。服装は基本パーカーにジーンズ。

性格 基本猫かぶって善良な一般人のふりをしている。

本当の性格は自分以外ならどうなっても良い、世界が破滅しようが関係ないそんな性格。

だが心の中では破壊衝動と殺人衝動と破滅願望が渦巻いている。

目標は世界の全てに害を為す存在になること。

好きなもの

友達（球磨川、志布志、蝶ヶ崎、安心院など）

辛い物全般

刺激的な出来事

嫌いなもの

甘ったるいもの

邪魔をするもの

能力

オーバー・スペック
過乗

ワイザード・テンベスト
天害地異

自然災害を起こせる。

自分が起こした自然災害の影響を受けない。

起こした自然災害はコントロール不能。

カーザア
だけど加害者で操る。

害人が持っている元々のスキル。

元過負荷だがマイナス成長しすぎて、
過乗になった。

ほとんど使いこなせる。

加害者^{カーザア}

人に害するものを総べその全てを操ることが出来る。

例え爆弾であろうと、刃物であろうと、

銃器類であろうと、ミサイルであろうと、

細菌兵器だろうと、毒であろうと、

天候であろうと、天変地異であろうと、

星であろうと、隕石であろうと、

宇宙であろうと、別次元のモノであろうと、

神々だろうと、魔王だろうと、

世界の理であろうと、運命であろうと、

人外であろうと、人の害を為すものならば操れる。

完全に使うと世界が滅ぶので制限して使っている。

人は操れないが、人外なら操れる。

ウィザード・テンベスト

天害地異から派生して生まれた。

総べているので操れる物は効かない。

例えば刃物で切り裂かれようが、マシンガンを頭に連射されようが、自然災害である噴火の中に

突っ込もうが、隕石に押しつぶされそうになろうが、完全に操れてる物は無効化される。

制限状態で完全に操れるものは、刃物、銃火器、爆弾、ミサイル、細菌兵器、毒、生物兵器、

天候、自然災害、隕石、重力、。

制限を外すと、人に害がある物なら完全に操れ効かなくなる。

過乗は異常や過負荷とはスペックが違うため、完成でもコピーをしたら死ぬ。

一応過負荷のつもり。

反主人公体質

元々は主人公体質だったが改造されこうなった。

主人公より強い。だが気を抜くと負ける。

お互いに強くなっていく。

戦闘スタイル

主に天害地異ウィザード・テンベストで災害を起こし、加害者カーザアで操って攻撃や防御をする。

そして主に使うのは風

スピードは宗像並。

パワーは古賀並。

球磨川楔の螺子みたいに独鈷杵どつこしきょうを使う。

そしてノリで作った‘天変地異一〇〇の奥義’があり、それを使う。

‘ 天変地異一〇〇の奥義 ‘

‘ トゥフウ
凸風 ‘

凝縮した突風を相手にぶつける。

威力は最低で車を飛ばせるぐらい。

‘ 凸風 ‘ を応用して、独鈷杵を飛ばす。

‘ オウフウ
凹風 ‘

相手の体に風を纏わりつかせて、相手の動きを封じる。

意外と抜け出せない

‘ サクフウ
削風 ‘

床や壁をガリガリ削る風を吹き起こす。

威力はコンクリートの壁も削れる。

‘ フーフウ
虎風 ‘

虎の形をした風を放つ。

威力は普通だったら命に関わる大怪我、特別だったら命に別状はな

い重傷

異常だったら軽傷、過負荷だったら即死レベル。

ビヤクライ
‘ 白雷 ‘

指から雷を飛ばす。正確には周りから静電気を集めて撃ちだす。

乾燥しているところじゃないと撃てない。

威力は完全武装していたり、身に金属を纏っていると威力が跳ね上がる。

普段の威力はあまり期待できない

主に牽制用を使う。

モデルは某死神代行さんの術

ヒョウハク
‘ 氷白竜 弐戦 ‘

周りの水分を凍らし氷の龍を作り相手に撃ちだす。

気温が零度を下つてないと使用不可。

威力は当たった物を完全に凍らすレベル。

ヒョウサイ
‘ 氷砕 ‘

凍っているものに高い音波を送り砕く。

先に相手を凍らせないと使えない。

奥義

ゴッド・オブ・カーザア
‘全テニ害ヲ為ス神’

カーザア
加害者の制限を解くとこのモードになる。

使った場合スキルが二つ増える。

ヴェノム・クレイヴ
‘天害蠱毒’

身体から全害の毒をだす。

アナザー・ゼウス
‘全死全害の狂神’

害人ノ入学

○ ？ ○ 年 \ 月 日

害人は志布志たちと会ってから、およそ十年間旅をしていた。

ある時は、スペインで闘牛をやったり、

またある時は、ドイツの軍隊でしごかれたり、

イタリアでパスタ作っていたり、

アメリカのニューヨークでバトったり、

中国で太極拳してパンダに遭ったり、

ロシアで冬の過負荷とバトったり（その後友達になった）、

フランスで執事の真似事をやったり、

今セーラー服来た女の子に話しかけられたんだ。

害「貴女は誰ですか、そして何の用ですか？」

安「僕のことは親しみを込めて安心院さんと呼びなさい。」

害「ああそうですか僕の名前は天害叢雲です。以後お見知りおきを。
で安心院さんは何の用ですか。」

安「君に箱庭学園に入ってほしいんだ。」

害「箱庭学園？何ですかその学校？？」

安「ほら、君が昔二回も潰した学校で僕の所有物だよ。」

害「ああ、あの学校ですか。でもなんで僕をあの学校に入れたがるんですか？？」

自分の所有物を二回も壊されたのに。」

安「君が壊したことは怒ってないよ。むしろ嬉しいぐらいだ。
僕が自分で改造した君があそこまで大きくなったのだから。」

害「そうですか。幼少期僕を改造したのは貴女でしたのか。なるほど世界中探しても見つからないわけだ。僕を改造したのは人外だったからか。」

安「で、箱庭学園には入ってくれるのかい？」

害「……………一つだけ質問があります。」

安「なんだい??」

害「そこは今も刺激はありますか??」

安「もちろんあるよ。君が刺激で死ぬぐらい。」

害「ならよろしく願いします。」

安「んじゃ君は明日からこの学校に来てね。準備をしてくるから。」

ヒウン!!

害人ノ出会イ（前書き）

時期は生徒会戦拳編の始まり辺りからです。

球磨川とは顔見知りの関係です。

飛沫と蛾ヶ丸はちょっとした友達です。

次に齒向かったらもう殺そうかな？

袴「何故君がここにいるんですか！！天害叢雲！！！」

害「何故ってこの学校に入学したんですよ。」

袴「いったいいつの間に？！！だが私はそんなことは聞いてない！！！！どうやって入学した！！！！」

害「貴方より上の人に入ってくれと頼まれたんですよ。」

袴「私より上！！！！いったい誰が・・・！！そうか安心院さんの指示ですか！！！！天害叢雲！！！！」

害「そう安心院さんの指示で入りました。何か文句でも？」

袴「くうくう！！！！分かりました、入学を認めます！！

ですがくれぐれもこの学校は壊さないでください！！！！！！」

害「努力はするよ。それで僕何組？」

袴「貴方は、十三組です。このクラスには過負荷の人専門ですのでどうか壊さないでください。」

害「努力はするか……も???」

過負荷だけだったらあいつ等もいるかも。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

球磨川楔はリコール宣言をした後、庶務戦のメンバーを決めていた。

黒神めだかは対十三組に向けて戦拳の会議をしていた。

[illegible]

楔「まあ任せて頂戴」むじう「生徒会が残り四戦全てしたくなるくらい」
「悲惨な試合を見せてあげるよ」

球磨川が括弧着けてセリフを言った時！！！！

害「ちわーす。今日入学してきた、天害叢雲と言います。以後お見知りおきを。」

害人が空気をぶち壊し、いきなり現れた。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

害人はけっこう空気が読めない。

害人ノ出会イ（後書き）

何かご意見や質問があればお申し付けください。

害人と蛾ヶ丸と飛沫は前に日本に来たとき会っており、そんなに感動的な場面ではない。

その時に球磨川とも会っており、一応友達になった。

楔「『一応ってなんだよ!!』『一応って!!!!』」

害「楔君地の文に反応しないでよ。」

蛾ヶ「所で叢雲君はなんでこの学校に転入できたんですか?？」

飛沫「そうだな、お前この学校出禁になっているのに。」

楔「『出禁??』『なんで???』」

害「めんどくさいから後でいいでしょ。そして楔君、僕が出禁になっている理由は、

昔この学校二回潰したから。」

楔「『そうなの!!』『じゃあ戦拳手伝ってよ!!!!』」

害「戦拳??なんだ蛾ケ丸君、戦拳って??」

蛾ケ「それは……………」

カクカクシカジカダイハツ○○○○!!!

害「へゝお前らそんなことやったのか。」

楔「『そういう事だから』『叢雲ちゃん僕に力を貸してくれないかい??』」

害「…………二つ条件があるが良い?」

楔「『条件??』『それって何??』」

害「まず一つ、僕は命令を受けない。二つ、僕のすることに文句は言わない。これでどう?」

楔「『良いよ』『ただし出てほしい時はちゃんと出てほしいんだけど…………』」

害「分かった、出るときは出る。これで取引終了だ。それじゃ僕は敵の下見に行ってくる。」

楔「『んじゃ』『頑張ってるねー』」

- - -
- - -
- - -

・十三組SIDE

江迎「球磨川さん、あの人って強いんですか？」

楔「『何言ってるの』『江迎ちゃん』『叢雲ちゃんは』『すごく強いよ』」

江迎「じゃあなんで幸福^{プラス}の人が、不幸^{マイナス}に味方するんですか？」

蛾ヶ「叢雲君は昔は過負荷だったんですよ。だけど長年戦いスキルが成長の限度を超えてるんです。」

もつ過負荷という枠からはみ出てるんですよ。いくなれば叢雲君は過負荷を超えた過乗という存在なんです。」

害人ノ戦拳1（後書き）

何か変なところがあれば、お申し付けください。

阿久根「十三組が何の用だ!!!」

害「まあまあそう熱くならず、僕は今日入学したから君達のことを知らない。

だから下調べに来たんだ。でもその必要は無かったね。君たち
つまらない。」

人吉「何だとっ!!!」

何か普通^{ノーマル}が突っ込んできた。

ガシッ!!!

とりあえず頭を鷲掴みにして、

害「危ないよ。加減しないと潰れるよ。」

人吉「グウウウウ・・・ガッ!!!」

ポイツ!!!

投げた。

黒神「大丈夫か！！善吉！！！」

人吉「ああ・・・だけどあいつスゲー力でやりやがった・・・」

害「あゝ本当に残念！こんなんじゃやる気でないよ。」

黒神「貴様・・・！！！！！」

そろそろ帰ろっかな。

害「そんなに怒らないでよ・・・んじゃね！」

阿久根「待てっ！！！！！」

あれ？ロンゲのパツキンが邪魔してきた。イラつく。

害「邪魔スナよ。コロスゾ」

害人ノ戦拳3

ここは時計塔地下一階。

害人side

害人は日之影に頭を掴まれている。

害「元英雄さんが何の用かな？」

日之影「お前は危険だ。学校のためお前を倒す。」

ドゴオオン！！！！

日之影は害人を地面に叩き付けた。

害「カ、ハア……………」

日之影「歯あ喰いしばれ……あー拳破、拳破、拳拳破！！！！」

オン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！
！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！
ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴ
オン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！
！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！
ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴ
オン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！
！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！……ドゴオン！

日之影の拳は床を砕き、遙か下の階まで行ってようやく拳が止んだ。

大型トラックの猛スピードで一撃とほぼ変わらない日之影の拳の
猛連打を受けた害人は虫の息だ。

害「ゴフウ！！！！・・・カ・・・ゲフウ！！！！・・・」

日之影「ははっ、もう虫の息だな。これに懲りたらこの学校から出
ていけ。」

害「お、お前・・・は誰だ・・・！！」

日之影「俺の事なんかすぐ忘れちまうよ。それじゃあな。」

対する日之影は、拳を振るい、拳圧で風を相殺した。

害「貴方はいろいろと出鱈目だねえ……！！！！！！」
「虎風^{こらうふう}」！！！！」

害人は、[「]削風[」]が相殺されると、今度は虎の形をした風を創り、
日之影に向けて放った。

日之影「それはお前もだろ！！！！！！」

日之影は[「]虎風[」]を力任せに殴り、消し飛ばした。だが[「]虎風[」]の
風で腕が少し傷ついたが。

害「まだまだ行くよ！！！！」
[「]凹風[」]！！」

ゴオオオオオン！！！！！！！！

害人が[「]凹風[」]を放つ。そして日之影に風が纏わりつく。

日之影「何だこれは！！！！！！！！」

風に包み込まれ日之影は動けない！！！！

害「貴方を封じる風だよ！！」
[「]凸風[」]！！！！！！！！」

ブオオオオオオオン!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

害人が日之影に向けて、‘凸風’を飛ばす。

日之影「くっ!!!!（クソっ!!!!風が纏わりついて動けない!!
!!）ウゴアア!!!!!!!!!!」

風を相殺することも消し飛ばすことも出来なかった日之影は‘凸風’
を諸に喰らい吹っ飛んで行った。

日之影「グウ・・・・・・・・・・・・・・・・アア・・・・・・・・」

害「もうスタボロだね。ついでに止めても刺しところかな???」

害人は自分もスタボロの状態でスタボロの日之影に近寄ってった。

その手には長く鋭い朱く血塗れた独鈷杵どくこしきうがあった

日之影「グウア・・・・・・・・・・・・・・・・やめ、止めてくれ・・・・・・・・もう
降参だ・・・・・・・・」

害「ごめんなさい。そしてくたばれ　!!」

ズシャアアアアアアアア！！！！！！！！！！

害人は日之影の脇腹を独鈷杵で切り付けた。

日之影「グアアアツアアアアアアアア！！！！！！！！！！！」

日之影は痛みに悶え苦しむ。

害「んじゃね。この体験は結構刺激的だったよ。」

害人はそう言い残し、この場から去って行った……

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

日之影はその後、めだか達に助けてもらった。

だが元英雄は害人のおかげでも大きな傷を負った。

害人はズタボロになった物の、球磨川に直してもらった。

害人ノ戦拳3（後書き）

感想をお待ちしております。

害人ノ戦拳4

害人は日之影空洞を倒した後、球磨川に傷を治してもらい家に帰った。

そして月日が流れ今日は生徒会戦拳庶務戦の日になった。

害人は何を為すのか？

害人side

やあ読者の皆さん御機嫌よう、初めての人は以後お見知りおきを。

楔「『叢雲ちゃん』『一体誰に向かって話しているんだい？』」

害「だから地の文に突っ込むな。」

まあそんなところで今日は生徒会戦拳庶務戦の当日だ。

他の連中はどうかで秘密の特訓をしている奴らを叩きのめすのに行

っている。

僕も行きたかったんだけど、球磨川一人に任せておくのも何かないって思ってたんだよ。

楔「僕って本当に」『信頼されてないんだねえ』」

害「もう一度言う、地の文に突っ込むな、人類最弱。」

まったくこいつの相手をしてるのも疲れるのになんであいつ等はこんなに遅いんだよ・・・

楔「『イライラしていると禿るよ?』」カルシウムでも捕ったら?」

」

害「地の文には突っ込むなああああああ!!!!!!」

楔「『ひや』』」『叢雲ちゃんが怒った』』」『誰か助け
て』」

まったく彼奴は偶にウザっなくなる。何とかならないのか。

あ~~~~~ 本当に遅い!!!!!!

俺のハバネロスナックが無くなってしまうではないか。

え？なぜハバネロスナックだって？？あいつ等が来るのが遅いから暇つぶしで食べているんだ。

この辛さがとてつもない刺激なんだよ。ちなみに今五袋目。

球磨川は少年ジャンプを読んでいる。今週は俺も見えてないな、次貸してもらおう。

カチャ

ようやく生徒会メンバーが入ってきた。

楔「『あ、遅かったねめだかちゃん』プリントには時間厳守って書いてあったのに」

黒神「球磨川……！叢雲！！！！！！」

害「何か御用で？」

黒神「……まあ良い、球磨川そして叢雲まさか二人だけか？」

球磨川「『僕たち二人だけなんだ』」他の過^{マイナス}負荷は皆海水浴とかで夏休みを満喫しているよ」「あー！人吉先生見ーつけ！」「」

球磨川が子供先生擬きみたいなのに近づきその手を取る。

球磨川「『この前江迎ちゃんとエロ本買いに行った時』」「凄く人吉先生にそっくりな女の子が載っている逸品を見つけましてね」「今度お持ちしますからどれほど似ているか自分の目で確かめてみてください』」

瞳「・・・・・・・・えーと、うん、今度ね・・・・・・・・」

人吉先生ドン引き（笑）

つーか球磨川そんなところに女の子連れてっていいのかよ・・・

黒神「おい待て、球磨川こっちを向け。」

グイ！！

黒神「お前と叢雲どっちが庶務戦に出るのだ？」

球磨川「『僕だよ、めだかちゃん。』」「まあそついう事だから善吉ちゃん今日はよろしくね」「『正々堂々フェアに戦おう！』」

ガシッ！！！！

生徒会長が球磨川の肩を掴んだ。あれは相当ご立腹だね。

球磨川「『どうしたの？』『めだかちゃん』」

黒神「球磨川！！貴様というやつは・・・どうしてそうなのだ！！
！」

球磨川「『どうして怒ってるの？』『僕と直接戦えなかったから？』『善吉ちゃんがピンチだから？』」

黒神「今回のことも含めて、貴様の全てが腹立たい！！！」

黒神「何なんだお前は！！！！私はお前の考えてることがさっぱり分からん！！」

十三組の抹殺？！！エリートの皆殺し？！！！！

なぜお前はそんなことを企む？！！！！！！

優秀エリートと呼ばれようと、異常アブノーマルと呼ばれようと、

彼らは私たちとなんら変わらぬ人間なのだぞ！！！！！！！！

おいそれと傷つけて良いものではない！！！！！！

どうしてそんなことが分からのだ！！！！！！！！！！！！！！！！

今思っただけで俺って空気~~~~~~~~。

そろそろ発言しとこうかな？

害「そんなもん知るか。球磨川がどうかは知らんが俺は壊したいから壊す。殺したいから殺す。

ただそれだけだ。」

黒神「なぜお前らはそう身勝手なのだ？！！私には理解できん！！！」

害「ならこつちだつて言わせてもらう。

元々人間という生き物は身勝手なのだ。

元々いた動物を殺し、自然を破壊し、地球を汚す。

身勝手そのものだ。

そしてその頂点に近いのが優秀エリートや異常アブノーマルだ。

優秀エリートが身勝手なのは歴史が証明してる。

昔の日本では軍の優秀エリートが身勝手な戦争を起こしほぼ負けになつても負けを認めず、

原子爆弾が落とされ数十万人もの人死んだ。

これを身勝手と言わずなんというのか。

所詮優秀エリートなんてそんなもんだ。

優秀エリートの連中が俺らダメダメな過負荷マイナスの事理解できるはずがないだろう？なあ球磨川？」

球磨川「『そうだね』『過負荷ぼくたちの事分らないくせに分かった気になるなよめだかちゃん』」

黒神「~~~~~!!!!!!」

球磨川「あ、そうだ」『例えばの話なんだけどさあ』『人生はプラスマイナスゼロっていうやついるじゃん?』『優秀エリートでも喜んだり悲しんだりするとか』『幸福な人もそれ相応の苦勞を積み重ねてるとか』『まあおよそそんな意味で』『だから人間はみんな平等だつて言いたいんだと思うけど』

でも人生はプラスマイナスゼロだつていうやつは』『決まってプラスな奴なんだ』『幸せな奴だからそんな悟ったみたいな事が言えるんだよ』『少なくとも過負荷はプラスいいことがあつたからってマイナスやなことが帳消しになるなんてことは思わない』『何の事ではない』『僕は幸せでプラスなみんなに』『マイナスの気持ちを分かつて欲しいかも知れないね』

生徒会長がスゲエ顔してる。

なんか負の感情をゴツチャにしたような顔だなあ。

黒神「……………!!」どうせそれも嘘なのだろう!!!!すがりつきたくなるような嘘だ!」

スゲエ拒絶している。

球磨川「うん、きつとそうだね」

まあそこを否定しないのがあいつらしいな。

球磨川「とにかく僕はめだかちゃんとは戦わない」僕はめだかちゃんが大嫌いだからね」だから会長戦の君の相手は他の過負荷マイナスが務めるよ」だからめだかちゃんは僕が善吉ちゃんを嫌というほど螺子伏せる場面を間近でゆっくり見ればいい」

黒神「っ！！！球磨川！！だから貴様は……！！！！」

生徒会長さんが突っ込んでいった。

あれ上から誰かが飛び降りてくる、なんであんな無駄にかっこつけてるんだろっ。

「……それでは定刻になりましたので戦拳を始めさせて頂きたく存じます。」

何かこいつ見るからに不審者っぽい（笑）

「……まずは皆様、本日はご多忙の中こうしてお集まりいただきありがとうございます。」

私目は僭越ながら生徒会戦挙を管理させていただきます。
選挙管理委員会副委員長二年十三組、長者原融通と申すものでございます。

ほんのひと夏の間ではございますが、どちら様も宜しくお
願います。

ですが、何分この通り緊張してますので不満や至らぬ所が
有れば遠慮なく仰ってください。」

球磨川「『えゝ不満ねえ、いきなりそんなこと言われてもなあ』」

キン！！！！！

長者原「これはどういった趣向でございますか？球磨川様。」

球磨川の螺子を指で止めてる。あいつ結構やるな。

球磨川「『いや、君がこの選挙を管理する資格が』」あるかどうか
試しただけさ』『そして不満なく合格だよ』『叢雲ちゃんも良いよ
ね？』」

害「いいともー」

球磨川「『それじゃあ宜しくね、長者原君』」

くじら「お前らもう少し危機感を持てよ。長者原君は【平等】の異^{アブノ}常^{イマル}を持っている、

その長者原君がジャッジするなら、学校側の裏工作もないが逆に俺たちが負けてもリカバリーが 気かねーぜ？」

黒神「ああ、私たちが公式上のルールで負けた場合、長者原二年生は躊躇なく連中を生徒会に選出するであろうな。」

これはラッキーだね。公式上の上では何をしても良いんだから。

善吉「……大丈夫だよめだかちゃん、要は勝てば良いんだろ？

俺は球磨川の方が勝ちやすい。

不知火や江迎を相手にするよりよっぽど気が楽だぜ。

だからめだかちゃんは何時ものように無駄に偉そうに、どっしり悠然と構えていてくれ。

それに球磨川お前が何をほざこうと俺は興味ねえ。

お前がどうしてこんなことするのかなんて知らねーし、

お前がどうしてそんな人間なのかなんて知りたくもねえ。

お前こそ分かってもらおうとしてんじゃねえよ、図々しい。

お前は意味不明なキャラのまま負けてこの学校から出ていくのさ。

だからその前に、お前に一つだけ言っておいてやる。

人生は幸福^{プラス}だ。

「

人生は幸福ねえ~~~~

長者原「それでは対戦方法を選んでいただきます。対戦方法はこの十三枚ある札の中からランダムで決められます。」

何か文字が書かれた札が運ばれてきた。

長者原「では挑戦者である球磨川様、十三枚あるこの札の中から御一つ選んでください。」

球磨川「『うん、ここは過負荷^{マイナス}らしく已で！……！』」

球磨川は已の札を選んだ。

長者原「ふむ、さすがは球磨川様。

この後の試合の景気付けとも言える初戦に已のカードをお選びになるとは、

庶務戦の形式は「毒蛇の巣窟」に決まりました。

これは我々が用意した庶務戦の形式の中では最も残虐なルールです。」

試合は一週間後っばい、この回では俺は滅茶苦茶空気だったかもな。

害人ノ戦拳5（前書き）

主人公が空気に近いです。

害人ノ戦拳5

害人side

前回から約一週間の月日が流れた。

俺は今生徒会戦拳庶務戦を観戦している。

本当は他の過負荷達マイナスと一緒に襲撃したかったんだけど、

俺が行くと他の過負荷達マイナスの出番がなくなるので渋々こっちに回った。

庶務戦では球磨川が優勢っぽくなっている。

流れるには普通君が蹴りまっくて球磨川がボロボロになって、

だけど球磨川の大嘘憑オルフィクションきで傷が全部虚かったことにされて、

そして普通君の視力が虚かったことにされた後かな。

今は普通君が滅茶苦茶怯えてる、まるで小動物みたいだ。

そして球磨川がある提案をしてきたとこだ。

球磨川「『善吉ちゃん』『僕と友達になってくれるならその眼を戻してあげてもいいよ』」

球磨川本当はそんなこと出来ないだろ。

でも普通君は何か色々考えてる。

さて視力を捨てて前向きに生きるか、視力が戻って堕ちてゆくか。

どっちなんだろ。

人吉「俺はお前が嫌いだ。だから友達にはなれねえ。」

あらら、球磨川振られてやーんの。

自分はどんなことがあっても信念を曲げない！！！！ってかいいい心がけだね。

そうゆうの見てると潰したくなるなあ。

人吉「めだかちゃん！！！！楽しい高校生活だったなあ！！！！！！！！！！」
入学式！！！！新入生代表の挨拶で、お前はいきなりぶちかましてくれたよなあ！！！！！！！！！！

日之影先輩とも実は最初は揉めてたもんなあ！！！！

そうそうたる先輩方を向こうに回しての生徒会選挙！！！！！！

目安箱を設置してからは休む暇もなかったなあ！！！！！！

一学期だけで百件以上は悩みを解決したか？！！！！

花の世話を全部おれに押し付けやがって！！！！！！！！

阿久根先輩との柔道対決！！！！喜界島との水泳対決！！！！！！

敵だった彼奴らが今じゃ一番頼れる仲間だ！！！！！！！！

それってほとんどの過負荷に効果なくね？

でも揺れたおかげで普通君と球磨川が乗っていた金網が下がって
く。

うわ！ハブが飛び出してきた、そして球磨川と普通君が咬まれてる
（笑）

球磨川「『ただ僕には』 オール・フィクション『大嘘憑きがある！！！』」

人吉「球磨川、その欠点なら俺がカバーしよう。

友達にはなれないけど一緒に死んでやるよ！！！！

一緒に地獄を見に行こうぜ、球磨川先輩！！！！！！」

ガシッ！と螺子を掴まれる。

普通君、言っておくがそんなことしなくても オール・フィクション大嘘憑きは使えるんだ
ぜ。

球磨川「『……………嫌だよ』『死にたくない』『謝るから許し
てよ』『僕が悪かった』」

球磨川ガチで泣いてるし、涙ボロボロでおもせー。

人吉「ははっ！！お前の口からそんな言葉が聞けるとはなあとても
じゃねえが……………信じられねえよ。」

「ハブの毒は遅く回りじわじわと細胞を分解していくんだよ。処置が間に合わないと思ぬよ？」

黒神「善吉 いいいいいいいいいいいい！！！！！！！！！！」

害人「五十嵐」

ブオオオオオオオオン!!!!!!!!!!!!!!

長者原「！！！！全員退避！！！！」

長者原君の掛け声とともに選挙管理委員会のみんなが一斉に飛び退く。

あゝあもう少して他の奴らも皆殺しにできたのに。

「ただ、五十嵐を喰らってもピンピンしている生徒会長さん凄くね？」

めだか「ガッアッアアアアアアアア……！！！！！！！！！！」

やべ、こっち来た。

一応封じよ。

害人「凹風」

ブオオオオン!!!!!!!!!!

風がめだかの動きを抑え・・・

めだか「ギヤアアアアア!!!!!!!!!!!!!!」

バンッ!!!!!!!!!!

出来なかった。

普通に跳ね飛ばされた。

害人「凸風、虎風、削風」

ブウオオオオオオオオ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

これで少しはダメージを・・・

めだか「ギギギツガツガギアギガギ!!!!!!!!!!!!!!」

ブオン!!!!!!!!ブオン!!!!!!!!ズドオオオオオオ!!!!!!!!!!!!!!

・・・風が殴られて吹き飛ばされた。

一つは人吉善吉の無力化。

これはとある安心院チートさんの手によって目的は達成されなかった。

だが二つ目の時間稼ぎはうまくいった。

この時間稼ぎによつて黒神真黒と阿久根高貴と喜界島もがなと古賀いたみが、

蝶ヶ崎蛾ヶ丸、志布志飛沫、江迎怒江の過負荷達に襲撃され戦闘不能に陥つた。

黒神めだかはこのことを球磨川楔に聞いて即座に現場に行ったが既に事遅く、

そこに居たのはズタボロにされた仲間たちだった……

庶務戰終

[illegible]

害人「今回僕の出番少なかったよね。たぶん次は活躍するから期待しなくてもいいよ。」

うおう「次回もねーよ（笑）」

害人の夏休み in ロシア（前書き）

ちよつとした番外編です。

この作品はフィクションです。実在の組織とは一切関係ありません。

「お客様、他のお客様のご迷惑になっておられます。」

害「あ、サーセン。」

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

キングクリムゾ……「ザキ！」……（返事がない
タダの屍のようだ）

キン・「メドロア……」
（後には何も残らなかった・

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

「いやまた逢えて嬉しいよ、叢雲君。」

害人は今ロシアのモスクワのイヴァンという友達の家にいる。

出合いは害人がシベリア大平原を横断していた時、

助けたイヴァンはロシアのマフィアの跡取りであり幼い頃から厳し

い教育を受けていた。

イヴァンはその訓練の中で過負荷に目覚め、そのあまりの気持ち悪さにて、

マフィアの幹部らにシベリアへ追放された。

そして道に迷い遭難して害人に助けられた。

それを知った害人はイヴァンに過負荷のコントロールさせ、過負荷を過乗へと昇華させた。

過乗になったイヴァンは同じ過乗である害人と共に自分を捨てたマフィアを壊しに行った。

そしてイヴァンはマフィアを滅ぼし自分がボスとなり新しくマフィアを作った。

マフィアを作ったイヴァンは次々に世界中にある有力なマフィアを潰しマフィアを大きくしていった。

イヴァン「君は今たしか箱庭学園？に通っているんだよねえ。」

害「ああそうさ、毎日とても刺激的な事をしているんだよ、イヴァンも来たらいいのにさあ。」

イヴァン「僕も行きたいのは山々何だけどさあ、今ねえ敵対組織との抗争の真っ最中なんだよ。」

彼奴らさあ、潰しても潰しても何度でも復活してきて正直ウザったいんだよ。」

敵対組織とはイヴァンが潰したマフィアたちの残骸が集まって膨れ上がった物である

害「まあイヴアンの家だとそうゆうこともあるよなあ、でも他の奴らに任せれば良いだろ。」

別にイヴアンが張り切って敵を壊さないでイヴアンの部下にやらせれば良いじゃないか。」

イヴアン「そうなんだけど・・・皆よわっちくて僕が居ないと成り立たないんだよ。」

幹部は南アメリカに遠征に行ってるしさあ。

そういうわけだからさあちよっと手伝ってくれないかい？

報酬はシベリア行きの片道切符で。」

害「いいよ、別に。敵の規模はどれくらい？あんまり弱いと張り合えないからねえ。」

イヴアン「ざっと数千人ではば全員が完全武装しているよ。」

害「それって一体幾つのマフィアが手を組んでいるの？」

イヴアン「イタリアから二つ、フランスから一つ、イギリスから二つ、アメリカから三つ、

中国から二つ、そして日本から一つのマフィアの同盟だよ。」

ボス「騒ぐな！！！敵はたった一人だ！！冬將軍イヴァンとはいえ完全武装した兵士が3000人で行けばどうにかなる！」

下っ端B「ボス！！敵影は二つです！！一つはイヴァンですがもう一人は何者か分かりません！！！」

ボス「何だと！！！！だが奴の配下は殆どが弱小だ！！この戦いに出るほど強くない！！！！」

まさか幹部か?!?!!」

「下っ端ですが幹部は南アメリカに遠征に行ってます!!!」

ボス「ええい！分かった！幹部ではないというならばきつと弱い！！！！！！！」

冬將軍には注意しろ!!!全軍突撃!!!!!!

マフィアたちは吠えた。

襲いかかる恐怖を少しでも忘れるために。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	8												

名もなきマフィア連合SIDE

下っ端A「ボス!!! 大変です!!!」

ボス「分かってる！！！！イヴァンだろ！！！！あいつは囲んでやれ！！！！」

下っ端B「違います……！イヴァンではありません……！もう一人の奴が……！！！」

ボス「イヴァン以外はどつともない！！！！さつさとやつちまえ！！！！！！」

下っ端C「ボス!!!!!!イヴァンよりも一人の奴の方が強いです!!!!!!」

あいつ一人で半分以上やられています……………」

ボス「な、何いいいいいいいいいい！！！！！！！！！！」

ボスは恐怖していた。

最初に行った仲間たちからの通信が途切れたからだ。

ボス「お前ら！！仲間は！！！！」

下っ端A「ボ、ボス・・・俺以外全滅・・・です・・・」

バタツ！！！！

下っ端が力尽きる。

ボス「ヒイツ！！！！ヤバイヤバイヤバイヤバイ！！！！！！！！！！」

焦ったボスが逃げようとしたその時、

ドゴーーーーーン！！！！！！！！！！

爆風が吹き、壁が吹っ飛んだ。

そこから害人とイヴァンが出てきた。

害「君がボスかい？まあどっちにしても殺すけどさ。」

イヴァン「うふふふふふふふふふふふふふふふふふふ、さあて

お仕置きの時間だよお。」

ボスは恐怖に耐えきれなくなり錯乱した。

ボス「あははっははっははは、ははっはあはっはははは。」

錯乱したボスを尻目に害人とイヴァンは話を進めていく。

害「んじゃイヴァンどっちが止めさすか。」

イヴァン「僕は結構殺したから叢雲君に譲るよ、ぱっぱつとやってね、パッパツと。」

害「よし、では久しぶりにこのスキルを使うよヴェノム・クレイブ天害蠱毒」

害人から発せられた全害の毒がボスを襲う

ボス「ガアアアアアガアアアアアアア………」

マフィアのボスは哀れに苦しみながら死に至る。

その後アジトは謎の爆発によりこの世から消える。

害人の夏休み in ロシア（後書き）

オリキアラ説明

イヴァン・ブラギンスキ

ヘタリアのロシアをもとにして作りました。

見たときに過負荷っぽいと思ったので作りました。

オーバースペック

過乗で害人の友達です。

ウィンタ・ジエネラル

冬將軍を持っている。

安心院さんとは面識がない。

ウィンタ・ジエネラル

冬將軍

何もかも凍結させるスキル。

最低気温は絶対零度。

気温だけではなくスキルを凍結させたり時間や空間を凍結させることも出来る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1895y/>

全テニ害ヲ与エル加害者

2011年12月17日12時58分発行